

平成 29 年度全国建築士フォーラム開催報告

行 事 名 称	第8回全国建築士フォーラム in 京都	会 場	京都市勤業館みやこめっせ 地下第一展示場 A / B 面
開 催 日 時	平成 29 年 12 月 7 日 13:30~21:00	報 告 者	連合会青年委員 寺澤 彰訓
開 催 趣 旨	テーマ：『人+まち+建築士』～周知する事の重要性、周知の仕方や効果を学ぶ～ 次世代を担っていく青年建築士の皆様に、建築士と一般の方との関係性、周知の重要性や効果について実例を交え学んでいただく。	内 容	フィールドワーク ① 京都見学～六原学区実例見学 スタディーワーク ① 綱領唱和 ② 六原学区概要説明 ③ 質疑グループディスカッション ④ 六原学区実例パネルディスカッション ⑤ 質疑グループディスカッション

報
告
事
項

◇趣旨に対する成果

本大会は、フィールドワーク（六原学区の取り組みの実例見学）、スタディーワーク（座学にて六原学区の取り組みを聴講）の2部構成で実施しました。フィールドワーク参加者は、124名とフォーラム参加者の半数程度であったが、実例を見学する事によってスタディーワークでの理解度が増したようである。テーブルディスカッションでは各コーディネーターの配慮の元、果敢な意見交換、的確な質疑応答がされ参加者の真剣な態度がうかがえた。また、アンケート結果からもフィールドワークについて両論はあったが実施したこと事態は好評をいただいた。

周知の重要性、仕方、効果については様々なパターンがあると思うが、フォーラムで学んだ事は、いつでも引き出せる記憶となって参加者に脳裏に残っていただければ幸いである。

◇課題・検討事項

フィールドワークとスタディーワークの連携が参加者に伝わっていなかった可能性がある、今後の発信方法について再考が必要である。また、当日、運営側の用意が間に合わずタイムスケジュールが押してしまった。支払い方法、受付方法のスムーズな運営ができるようにシステム作り必要となる。その他として参加者より、カルキュラムの詰め込みすぎや、企画事態が身の丈を超えている部分があるのご指摘をいただいた。今後の運営に反映が必要である。

参加者数：フォーラム 220 名、懇親会 249 名、フィールドワーク 124 名

開催状況

